



多重災害ストレスが児童期および幼児期の精神的健康に及ぼす影響

福島大学 子どもの心のストレスアセスメントチーム
筒井 雄二、富永 美佐子、高原 円、高谷 理恵子 (人間・心理学系)

目的

先の震災が子どもたちの心に及ぼす影響をいかに少なくするか、すなわち、心のケアの問題が急務となり、心理臨床家によるメンタルケアの実践が注目を集めているところです。現在のメンタルケアの中心は、地震や津波を原因とするPTSD(心的外傷後ストレス障害：いわゆる”心的トラウマ”)の問題です(これは阪神淡路大震災のときも同じでした)。福島県も地震と津波を経験したという点では、PTSDへの対応が欠かせないことは言うまでもありません。しかし、それ以上に現段階では原発事故が子どもたちの心に大きな影響を与えています。

私たちは原発が引き起こす心の問題の中心は、ストレスとフラストレーションだと考えています。ストレスやフラストレーションの問題は、PTSDの問題とはまったく別の問題であり、対処の方法も別であると考えています。しかし、残念ながら現段階ではPTSDだろうが、ストレスだろうが、区別されることなく『心のケア』がやみくもに実践されているのが現状です。これは、まるで医師が患者を診察することなく、治療を施しているのと同じで、子どもたちの心の問題はまったく解決しません。福島の子どもたちが本当にかかえている心の問題を、科学的にきちんと調べ、その対策を社会や国に広く訴えていくことが必要だと私たちは考えています。

1. ストレス対処のためのリーフレットの配布

被災者の心のケアの中心は、被災者のつらい経験を言葉で表現させることにあります。しかし、言葉の発達途上にある児童や幼児は、上手に自分の気持ちを表現できません。そのため、(1)子どもたちはストレスをうまく解消できず、(2)周囲の大人は子どもたちのストレスに気づきにくいという問題が生じます。

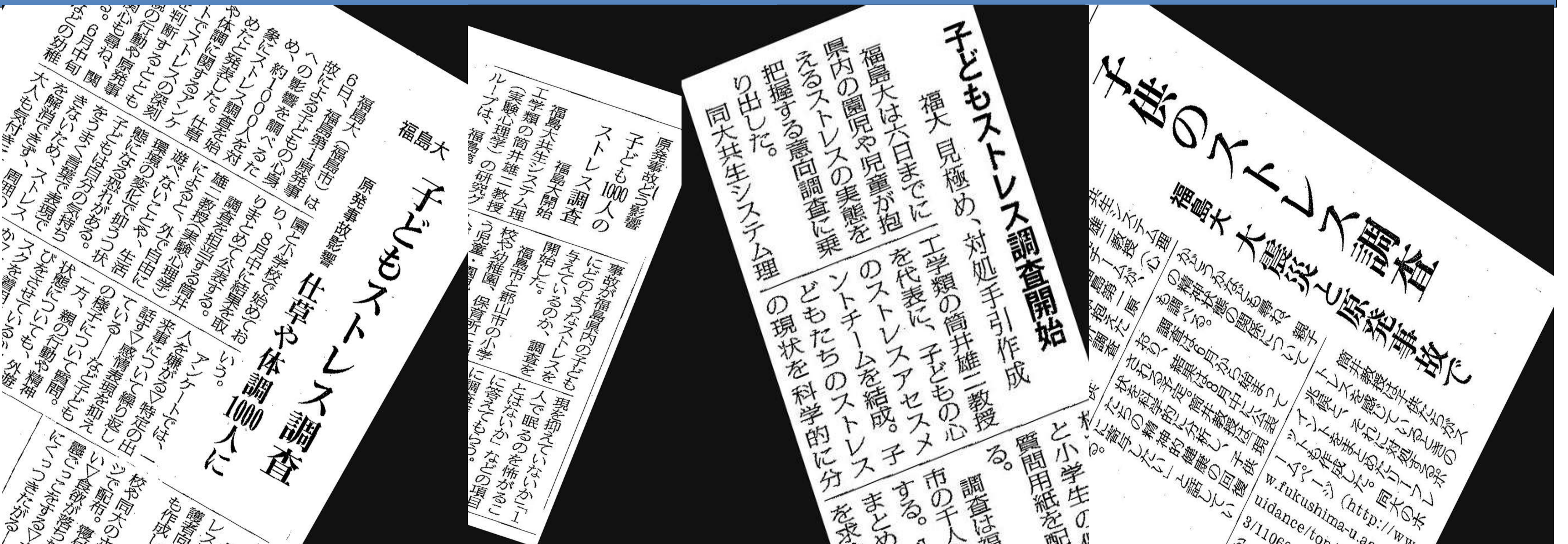
そこで、子どもにおける**ストレスの見極めポイントと対処のポイント**をリーフレットにまとめ、児童・園児のいらっしゃる保護者の皆さまに配布しています。このリーフレットは大学HPからダウンロードすることもできます(<http://www.fukushima-u.ac.jp/guidance/top/topics/h23/110620-stress.html>)。



2. ストレスアセスメントの実施

先述のように、福島では原発による子どものストレス問題が注目をあびています。現状では、ストレスの程度が主観的にとらえられ、科学的な現状把握も不十分です。そこで、心理学のストレス尺度等を使い、(1)福島でどのようなタイプのストレスが問題となっているか、(2)何が原因でストレスが引き起こされているか、(3)ストレスの問題がどこまで深刻なのかを測定し、子どもたちのストレスの現状を科学的に分析したいと考えています。そして、その結果をもとに福島の現状を社会に訴え、福島の子どもたちの精神的健康の回復に寄与したいと考えています。

現在、福島市と郡山市を中心に、1000名の児童と園児の保護者からデータを集めることを目標に調査を実施している最中です。8月中をめどに、同調査の結果を公表する予定です。



【お問い合わせ先】

960-1296 福島市金谷川1 福島大学研究協力課

TEL: 024-548-8009 E-mail: kyoudo@adb.fukushima-u.ac.jp